

【解説 1-2】地下空間の浸水対策の考え方

(1) 地下空間浸水対策の必要性

浸水が予想される区域に地下空間施設を計画する場合には、地下空間管理者は、利用者の円滑かつ迅速な避難の確保が図られるよう、適切な措置を講ずる必要がある。浸水対策としては、浸水対策施設の設置などのハード対策と共に、洪水時の危機管理行動の円滑化に関するソフト対策についても検討・実施する。

地下空間で浸水が発生した場合には、利用者の安全確保を第一とする必要があり、安全性を向上するための浸水対策施設の設置と共に、洪水時の避難行動の円滑化が重要である。

自治体など行政と連携して行うべき事項もあるが、地下空間管理者が責任をもって浸水対策を講じることが肝要である。

以下に、浸水対策の基本的考え方について示す。

地下空間における浸水対策としては、地上の浸水と比較して生命の危険性が高いため、資産を守るための対策よりも、地下からの安全な避難及び通常避難路が閉ざされた場合の緊急脱出を可能とする対策を優先することとする。

地下空間タイプ及び立地条件によって、地下空間の浸水状況が異なるため、これらの特性に応じた対策を講じていく。

地下空間への浸水時の危機管理行動を円滑化するための対策としては、平常時からの危機意識の啓発や防災訓練と共に、情報収集伝達や避難誘導施設など臨災時の行動を円滑にするための対策をとる必要がある。

(2) 段階毎の浸水対策の考え方

地下空間における浸水対策は、「当該地区への浸水」「地下空間への水の流入」「地下空間の水没」の各段階において、それぞれ浸水対策メニューを設定する。なお、どの段階においても地上への脱出口の道が残されているようにする。

地下空間での浸水は、避難のタイミングを逸することにより生命に危険を及ぼす可能性が高いため、各段階での危険性を正確に把握して、適確な対策をとり、いずれの段階に到っても生命の安全を確保する手段が講じられている必要がある。

STEP1：地下空間への浸水防止・遅延

- 地下空間浸水の可能性を知るための対策
- 地下への浸水を防御するための対策
- 危機意識を啓発するための対策

STEP2：避難行動の円滑化

- 地下空間への流入を知らせるための対策
- 避難ルートを確認し誘導するための対策
- 臨災時の情報伝達・避難行動を円滑に行うための対策

STEP3：地上への脱出口の確保

- 脱出口を確認し誘導するための対策

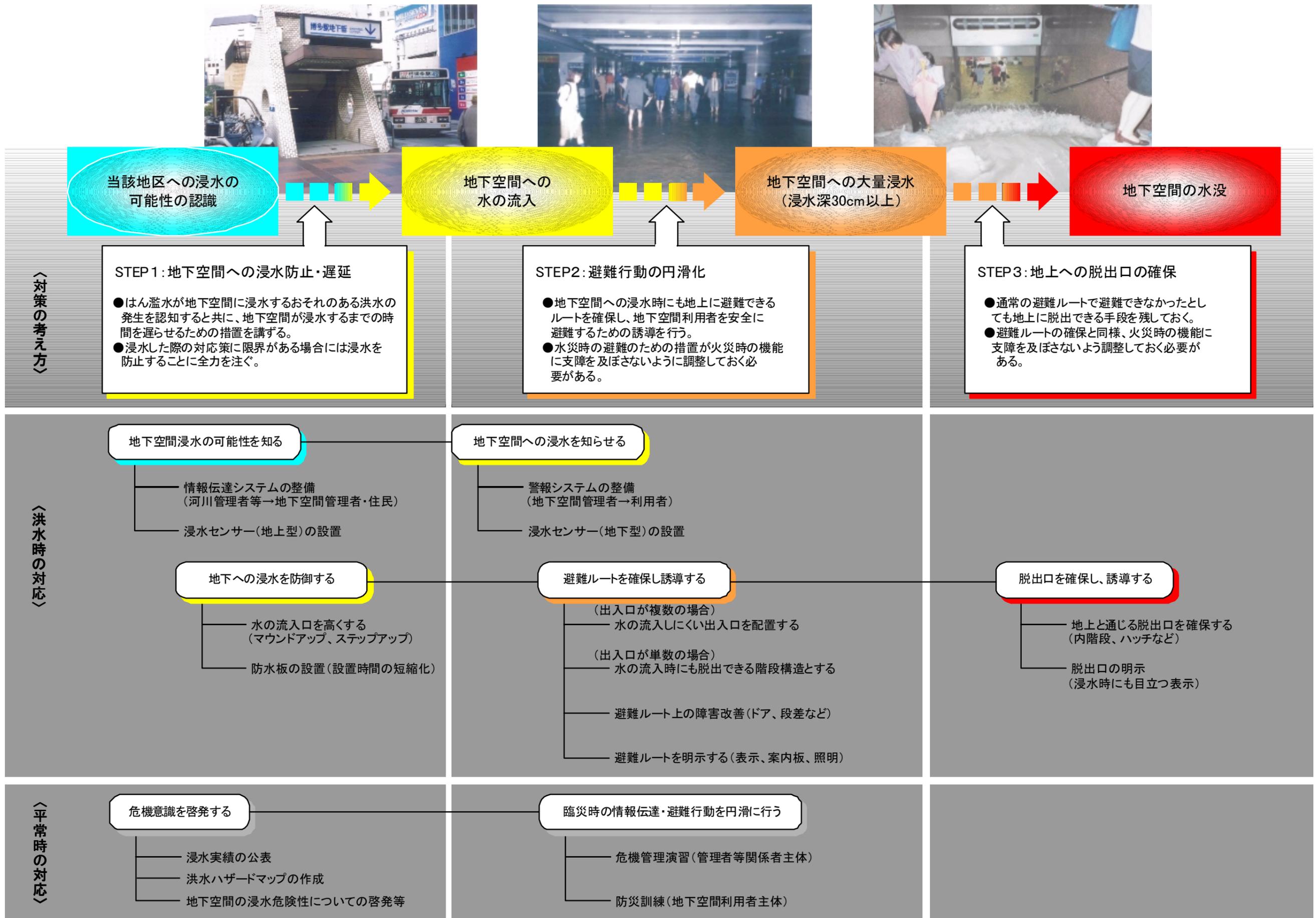


図 1-8 地下空間における浸水対策の全体像